令和元年度第２回浜松市美術館協議会の書面審議（まとめ）

委員名	項目	意見等
瀧口	企画展予算について	・日本画、浮世絵、仏像展、地元出身の画家や仏像などを市民に再確認してもらえる企画でとても良いと感じる。 ・特別展のくまのパディントン展は全国のファンに広報して子どもから大人まで鑑賞してもらいたい。
片桐	美術館運営の考え方について	・11 頁「４　施設機能・運営の研究」に「公開承認施設」が追記されているが分かりにくいため、国宝・重要文化財の「公開承認施設」制度としてはどうか。
齋藤	新たな文化振興ビジョンについて	・文化振興は市民主体で行うべきと私も感じる。市民、地域の意識の関心の向上のため、文化施設、生涯学習機関の生涯学習への取り組みは大切と思う。
内山	令和２年度浜松市美術館事業計画について	・浜松市周辺地域に関わる企画展が浜松市美術館で催されるのは意義深い。みほとけのキセキ展は遠州三河地域への仏教伝来の歴史等の参考になると期待している。
村松	市展について	・力作が多く、市民の創作活動の幅広さと取組みに感動した。 ・表彰式では受賞者のコメントや解説など興味深い話が聞けた。来館者ももっと参加していただけるよう工夫しても良いと思う。
	文化振興ビジョンについて	・鴨江アートセンターの「アーティストインレジデンス」は７年を経て累計 50 名以上のアーティストに参加して頂いている。今後、協議しながらこの事業を広く市民に紹介できる場が持てると良いと感じる。

4　未来へ繋がる美術館

展覧会を企画する際の作品調査や収蔵品の研究、各都市の美術館の取り組みや美術館に期待されるアメニティ空間など、美術館を運営するにあたり、常に新しい視点に立ち未来に向かって調べ・取り組んで行きます。

≪具体的取り組み≫

１　作品の調査・研究

優れた美術品や地方ゆかりの作品を調べ、企画・展示・解説するほか、約 7,500 点の収蔵品を後世へ繋ぐ公立美術館として、常に作品の調査や研究を続け、成果の公表を行うことで市民の皆さんの知識の涵養や美術・学術の振興に貢献していきます。

２　美術品の収集

近現代美術の流れを展望できる優れた作品や郷土に関係のある優れた作品のほか、それらの系譜に連なる優れた作品・資料等の収集に努めます。

３　学芸員の育成

美術館活動は美術館資料と学芸員能力の両輪によって成り立っています。「展示・公開」、「教育・普及」、「収集・保存」、「調査・研究」を行っていくには、先輩職員からノウハウを学んだり、他都市の取り組みを研究したりする他、自ら考え・行動する力も求められます。また、重要文化財を保有する施設としてもその能力は必要です。今後もＯＪＴやＯＦＦＪＴなどを通じて学芸員の人材育成に取り組んでいきます。

４　施設機能・運営の研究

現在の施設機能の中で、憩いの交流エリアや通年の館蔵品展、美術館ボランティアなど新たな取り組みにチャレンジしていく。また、地方自治法の改正に伴う指定管理制度による施設運営、国宝･重要文化財の公開承認施設制度など、現状を踏まえ様々な角度から調査研究し、市民の皆様にとって魅力的な美術館になるよう努めていきます。

５　美術館に寄せられる声

（1）親切で丁寧な接遇

初めての方、愛好家の方など美術を楽しむ憩いの場として職員研修を行い、親切で丁寧な接遇を心掛けて行きます。また、美術館に寄せられる来館者の声を積極的に収集・分析し、今後の美術館活動に活かしていきます。

≪想定される施設・機能≫

収蔵庫、燻蒸室、一時保管庫、写真撮影室、会議室、図書資料室、学習室、ＩＴ機器、事務室、倉庫、ユニバーサルデザイン機能